

税金とは、消費税や所得税、ガソリン税等の様に、取られてしまう悲しいお金だと私は思っていました。しかし、その税金の遣われ方について父と話しをした事もあり、一度深く考えてみる事にしました。

私が通っている中学校の色々な設備、教科書、また、日常的に利用している道路や公園などの公共施設、税金が遣われ維持されている所はたくさんあります。その中でも、私が着目したい点は救急車です。父は北京市出身で、中国の税金の遣われ方を聞いてみました。中国では救急車の利用が全て有料との事です。救急車が現地に到着するやいなや、

「あなたは救急車の利用料金が支払えますか？病院の費用も支払う能力がありますか？救急車に乗る事ができるほどあなたはお金を持っているのですか？お金を払わなければ救急車に乗せる事はできません。」

と、最初に問われるのだそうです。利用料金を直ぐに支払える人もいれば、そうではない人もいるでしょう。私も持病のぜん息発作により、クループ咳が止まらず息苦しくなり、徳島市消防局東消防署の救急車にお願いをした事があります。その時に私が少しでも安心ができるようにと、優しく心を砕いて下さいました。しかし、中国では容態や安否を尋ねる前に、救急車の利用料金や病院の支払い能力について先ず尋ねるのです。支払える事の確認が取れ、実際に支払いの確約が取れた後に、ようやく病院へと搬送をして貰えるのです。その人に支払い能力がなければ、親兄弟親戚や友人に借金をして乗せてもらうか、もしくは乗る事自体を諦める他ありません。その費用の内訳はと言うと、要請をした基本料金と、その場所から病院まで往復の距離に応じての料金が加算される仕組みだそうです。その他にも、人件費やガソリン代金等の費用も上乗せをされるようです。距離に応じての料金と言うのは、タクシー利用に似ています。

日本では、市町村に納められた自治体の納金により、救急車の利用は一切費用が掛かりません。その時の出動条件にもよるようですが、一回出動する度に、四万五千元ほど必要だそうです。無料だからと言って昼間の混雑を避けるため、夜間外来へタクシー代わりに救急車でやってくる患者もいると、ニュース報道で見たことがあります。安易な救急要請をするその裏で、一刻を争うような患者が助からないなどと言う様な事があるかも知れません。最近で言うと、新型コロナウイルス感染症に罹患した患者の命綱が、救急隊員さんと救急車なのです。自分たちがいつ罹患するかどうか分からない中で救助活動をして下さっているのです。いたずらや面白半分で救急要請をする人がこのまま増えて行くと、自治体の税金で維持しまかなうことが難しくなってきます。自分たちの命を救い、また、命の選別をされないためにも、自分たちの納めている税金を大切に遣って行きたいと思います。